

(3)漁業人財

プロジェクト

漁業者の確保・育成

目 標

・沿岸漁業における新規漁業就業者数 R4：10人 → R10：15人

挑戦する内容

- ・漁村地域において他産業との繁忙期を組み合わせるマルチワークの導入を検討
- ・漁業就業希望者が参加しやすい漁業体験の実施
- ・県内外のスルメイカ漁獲情報の提供によるイカ釣り漁業経営の安定化

関係者の声
=対話

- ・定置漁業等の乗組員不足、水揚げが無い時期の雇用継続難、やる気があれば未経験者でも歓迎、スルメイカのリアルタイムな県内外の漁獲情報が必要（漁業者）
- ・漁業の担い手を確保し、漁業生産量の維持が必要（市町村）
- ・漁業における周年雇用の求人が少ない、未経験で就業するのは不安（漁業就業希望者）

役割分担

- ・漁業者：就業希望者や体験希望者の受入れ
- ・県漁連：県内外のスルメイカ漁獲情報の収集
- ・市町村：連絡調整
- ・県：検討会開催と連絡調整、漁獲情報の迅速な発信

変革後の姿

- ・地域全体での労働力の確保により、漁業を含む地域産業が活性化
- ・漁業への具体的な就業イメージが膨らみ、新規漁業就業者が増加
- ・効率的な操業によりイカ釣り漁業者の経営が安定

令和6年度計画

挑戦する内容

- 1 漁村地域において他産業との繁忙期を組み合わせるマルチワークの導入を検討
 - ・平内町を対象としてホタテガイ養殖業と水産加工業等他産業とを組み合わせる周年就業可能なモデルを検討
- 2 漁業就業希望者が参加しやすい漁業体験の実施
 - ・県が就業希望者の要望の聞き取りと体験先となる講師の調整を行い、漁業就業希望者が日時、場所等を選択できる漁業体験を実施
- 3 県内外のスルメイカ漁獲情報の提供によるイカ釣り漁業経営の安定化
 - ・県漁連と協力してスルメイカの迅速な漁獲情報の提供を継続
 - ・経営の改善や維持に向けたパンフレットを作成・配布



漁業体験（ロープワーク）

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・平内町において、行政、漁業者、商工業者等で構成する検討会を立ち上げ、漁業就業希望者が周年働ける環境整備に向けて意見交換し、マルチワークの導入を検討（年2回）
- ・漁業体験者から今後の就業見込み等を聞き取り、漁業者とのマッチングを検討（随時）
- ・イカ釣り漁業の経営安定について漁業者の意見を収集し、パンフレット作成に反映（随時）